

秋 雜 詠

よ し こ

叢に蟲多し

蟲追へるひたむきの姿に心うたれ持ちたる言葉云はで過ぎたり
在所^{ありま}求めつぶらなる瞳は一づなりころく、蟲は又もなき居り
わが言葉よくぞこ^こ解き^さ幼きに答してありためらひもせで

夕 顔

夕顔に心のこりて玻璃戸越し更けてののちを又も見つ庭
白く咲けき寂しくもあらず夕顔の花は大輪に咲きてあればにや

折 に

よしあしのたぎくしき日叱らるゝ事もありしか今ぞなつかし
年齢^{としから}故かさされる如き生活に少し疲れぬ叱られても見たき